

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月20日現在

機関番号：32521

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2012

課題番号：22520193

研究課題名（和文）1920年代出版メディアに於ける「円本」戦略とその展開に関する研究

研究課題名（英文）The Commercial Tactics of "Yen Hon" through the Publishing Media in the 1920s: Its formation and development.

研究代表者

庄司 達也 (SHOJI TATSUYA)

東京成徳大学・人文学部・教授

研究者番号：60275998

研究成果の概要（和文）：われわれは、円本全集の出版とそれに関わる宣伝活動についての全国各地での調査を行い、そこで収集した資料の分析を概ね終えた。その成果を論集として公開する準備も整えつつある。これにより、円本全集とそれに関わる出版メディアの実態をより詳細に明らかにすることが可能となった。

研究成果の概要（英文）：Our project have collected and read materials concerning to publishing and advertising activities of the collective works of "Yen Hon" throughout Japan. We next proceed to publishing the result of our research. This must promote more clear and detailed understanding of the works of "Yen Hon" and the Publishing media's tactics.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
2012年度	900,000	270,000	1,170,000
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学 日本文学

キーワード：円本、全集、作家、読者、大衆、出版社、メディア、アジア、国家

### 1. 研究開始当初の背景

本研究グループは、これまでに科学研究費補助金の助成を2度受け、1920年代出版メディアに関する、特に改造社を中心とする「円本」全集出版に関わる全国規模での調査を継続して行ってきた。また、その成果を学界にも多く問うてきた。それらを踏まえ、1出版社、或いは〈文学〉という枠組みを前提とする調査では、その実態を明らかにすることの困難であることを痛感した。そのために、本研究の調査は、〈文学〉という枠組みに拘らない視座の獲得のもと、多面的で且つ立体的に展開する必要があると認識するに至った。その結果、同様の対象を取り上げてきた

幾つかの研究グループや各地の文学館、教育委員会などの研究機関や組織との協力関係を構築してきた。

### 2. 研究の目的

本研究は、昭和初期に一大ブームをもたらした所謂「円本」（全集）出版に関わる研究を行うプロジェクトである。申請者は、これまでに「円本」出版の嚆矢である改造社を主たる対象とした研究を進めてきたが、その結果、改造社1社をその対象として研究を進めること、或いは〈文学〉という枠組みでこの現象を捉えることの困難であることを明らかにした。本研究はそれを更に進め、〈出版

ジャーナリズム)、〈作家〉、〈読者〉としての〈大衆〉の3者の間に展開される関係性を明らかにする為に、メディアイベントとして開催された各種の宣伝活動の実態に、多面的立体的にアプローチし、出版メディアの戦略と展開の様相を明らかにする。

また、円本(全集)の出版という事業が〈作家〉、〈出版社〉、〈読者〉の3者の関係に変容をもたらしたとする観点から、以後にも認められる「全集」出版ブームについて調査、分析し、その実態を解明することを目的としている。

### 3. 研究の方法

定期的開催してきた勉強会に加え、これまで行ってきた全国各地での調査を継続して進め、新たな調査対象地域での資料の収集と分析を行った。また、同様の対象を取り上げてきた幾つかの研究グループや文学館などの研究機関との協力関係の構築が既に果たされているので、本研究ではこれらの組織と積極的に連絡を取り、情報交換を行い、お互いの研究の進展を促した。

具体的に展開した各地の調査は、以下の通り。

2010年度 三重県立図書館、松本市立図書館、山梨県立文学館、こおりやま文学の森資料館、静岡県立図書館など。

2011年度 日本現代詩歌文学館(岩手県北上市)など。

2012年度 富山県立図書館、福井県立図書館、金沢市立図書館、山形県立図書館、岩手県立図書館など。

また、2013年3月24日には、秋田県仙北市にある新潮社記念文学館に於いて、高橋秀晴秋田県立大学教授、松本博明岩手県立大学盛岡短期大学部教授を外部講師として招聘し、「シンポジウム「円本、地域、文学」を仙北市教育委員会、「新聞メディアによる〈文学〉創造の総合的研究 —『時事新報』文芸欄を中心に」(研究代表杉山欣也、研究課題番号:22520173)と共催した。本研究グループからは、代表の庄司達也がパネラーとして、研究分担者の須藤宏明が司会として参加した。

### 4. 研究成果

本研究の成果によって「出版メディア」と「作家」、「文壇」、「読者」の関係が、新たな枠組み、関係性のものとして改めて把握されることになった。また、昭和初期に展開されたこの事態は、それ以降の出版事業のひな型ともなって後に反復されてゆくことになるが、本研究が明らかとした事柄は、「全集」出版に関わる研究に対して、重要且つ新たな研究の切り口を提示したことになることと確信している。これらの研究成果は、文学研究に

留まらない、ジャーナリズム研究、マスメディア研究の分野にも無視できない成果をもたらすことになり、その意味で本研究の射程は広く、その意義も決して小さくはないものであった。

また、本研究課題の最終年度となった2012年度に、秋田県仙北市教育委員会などと連携し、公開シンポジウムを開催することで研究の成果を公開したことは既に前節で触れたが、より有効な形で広く公開し、学会の評価を仰ぐ意味からも、研究論文集の出版を企画しており、その準備も整えつつある。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計13件)

庄司達也(西山康一との共著)「志賀直哉と『大阪毎日新聞』——「或る男、其姉の死」「暗夜行路」背景考——」、『岡大文学論稿』、2013年、42号、査読無

山口直孝「「純粹小説」としての『白蠟変化』——一九三〇年代の横溝正史の一断面——」、『横溝正史研究』2013年、4号、36-45頁、査読有

庄司達也(三宅昭三との共著)、「薄田泣菫「久米正雄宛書簡」、「久米正雄「薄田泣菫宛書簡」翻刻——附、久米正雄「牡丹縁」入稿原稿(冒頭)の紹介——」、『東京成徳大学研究紀要—人文学部・応用心理学部』、2012年、19号、1-13頁、査読有

平野晶子「女性雑誌という舞台—芥川龍之介「白」と「女性改造」」、『学苑』、2012年、863号、査読有

山岸郁子「〈資源〉としての文学」、『産業経営プロジェクト報告書』、2012年、35巻2号、16-29頁、査読無

須藤宏明「鈴木彦次郎「ダーク・エンゼル？」論 —昭和初年代における、農民文学とサタイヤ文学の問題」、『日本文学会誌』(盛岡大学)2012年、24巻、40-55頁、査読有

杉山 欣也(竹本寛秋との共著)「「時事新報」文化関連記事目録 一九二七(昭和2)年一月」、『金沢大学歴史言語文化系論集 言語・文学篇』2012年、4巻、1-31頁、査読無

庄司達也(西山康一との共著)「「薄田泣菫宛書簡」翻刻」、『芥川龍之介研究年誌』、2011年、5号、135-151頁、査読無

山口直孝「『私小説』への接近 ―志賀直哉  
文芸中期の変容』『国文学解釈と鑑賞』、2011  
年、76巻6号、45-54頁、査読無

和泉 司「横光利一賞の生滅と「新人」の意  
味―第二回・永井龍男の受賞を視座として  
―」、『横光利一研究』、2011年、9号、  
93-109頁、査読有

須藤宏明「鈴木彦次郎、人と文学―新感覚派  
時代までを中心に―」『国文学解釈と鑑賞』、  
2010年、75巻6号、174-185頁、査読無

山岸郁子「〈いま〉を考えることとは」文学  
館の〈いま〉を考える』、『昭和文学研究』、  
2010年、60集、110-112頁、査読有

山岸郁子「火野葦平の公職追放仮指定に対す  
る「異議申立書」と「証言」、『語文』、2010  
年、136輯、166-181頁、査読有

【新聞報道】(同種の内容が、いくつかの新  
聞で報じられたものも多いが、最初の報道の  
みを記した。)

①「円本の功績を考察 仙北市でシンポ 宣  
伝に着目「画期的」」『秋田魁新報』2013年3  
月28日

②「『小説の神様』新聞連載は苦手…書簡見  
つかる」『読売新聞』2013年3月4日

③「円本調査」『岩手日日』2012年2月27日

④「芥川「朝日」はライバル」『朝日新聞』  
夕刊 2011年5月20日

〔学会発表〕(計4件)

須藤宏明「自然災害と岩手の文学」、東洋大  
学東洋学研究所 研究所プロジェクト・公開  
講演会、2012年11月24日、東洋大学

須藤宏明「アヴァンギャルドと文芸時代」、  
川端康成学会 第157回例会 横光利一  
文学会との合同研究集会、2012年8月25日、  
二松学舎大学

山口直孝「志賀直哉『雨蛙』の問題―文学  
者をめぐる葛藤」、講座「資料は語る」2012  
文学の〈大正〉第1回、2012年4月21日、  
日本近代文学館

松村 良「雑誌『改造』と〈上海〉」、国際シ  
ンポジウム「近代百年 日本文学における上  
海 (1900-2000)」、2011年10月23日、復旦  
大学

〔図書〕(計1件)

和泉 司『日本統治期台湾と帝国の〈文壇〉

―〈文学懸賞〉がつくる〈日本語文壇〉』ひ  
つじ書房、2012年、436頁

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

庄司 達也 (SHOJI TATSUYA)  
東京成徳大学・人文学部・教授  
研究者番号：60275998

### (2) 研究分担者

山岸 郁子 (YAMAGISHI IKUKO)  
日本大学・経済学部・准教授  
研究者番号：90256785

須藤 宏明 (SUDO HIROAKI)  
盛岡大学・文学部・教授  
研究者番号：60275584

### (3) 連携研究者

中沢 弥 (NAKAZAWA WATARU)  
多摩大学・グローバル・スタディーズ  
学部・専任講師  
研究者番号：20279821

山口 直孝 (YAMAGUCHI NAOTAKA)  
二松学舎大学・文学部・教授  
研究者番号：30297741

杉山 欣也 (SUGIYAMA KINYA)  
金沢大学・歴史言語文化学系・准教授  
研究者番号：90547077

平野 晶子 (HIRANO AKIKO)  
昭和女子大学・人間社会学部・准教授  
研究者番号：10218795

掛野 剛史 (KAKENO TUYOSHI)  
埼玉学園大学・人間学部・准教授  
研究者番号：00453465

### (4) 研究協力者

和泉 司 (IZUMI TUKASA)  
慶應義塾大学・日本語・日本文化教育  
センター・専任講師 (有期)  
研究者番号：50611943

松村 良 (MATSUNURA RYO)  
駒沢女子大学・文学部・非常勤講師  
研究者番号：00265571